大分合同新聞

ワークシート

有料化２年目・ごみ減量効果は

年　　組　　名前

① 古紙・布類の回収量が有料化実施前年よりも減った理由を書きましょう。

可燃ごみの中に古紙が１割ほど交じっていた。

② 記事を基に、有料化実施前年同期の可燃ごみの排出量を計算しましょう。

82488:□＝100:116
□＝95686.08 トン

③ ごみ減量のためにできることを、自由に考えてみましょう。

分別をより徹底すること、マイバッグを使うことなどいろいろありますが、子どものユニークな発想に期待します。

家庭ごみ有料化２年目　総排出量12.3％減

大分市は14日、家庭ごみ有料化２年目（2015年11月～今年10月）のごみの排出状況を公表した。可燃ごみ（燃やせるごみ）と不燃ごみ（燃やせないごみ）を合わせた総排出量は有料化実施前年（13年11月～14年10月）と比べて12.３％減少。１年目と比較してもわずかに下回った。市清掃管理課は「１年目に引き続き、ごみの減量効果が維持できている」としている。

家庭ごみ有料化2年目の概要について説明する桑野徹清掃管理課長＝14日、大分市役所

減量効果は維持

大分市　分別徹底を呼び掛け

市によると、ごみ排出量は、可燃ごみが8万2488㌧（実施前年同期比11・6％減）、不燃ごみは4923㌧（同22・1％減）だった。リサイクル分野では、資源プラの回収量が実施前年同期比で27・3％増と大きく伸びたが、古紙・布類は同2・3％減った。市調査では可燃ごみの中に古紙が1割ほど交じっており「分別の徹底を呼び掛けたい」（清掃管理課）としている。

可燃ごみの減量に伴う処理コストの節減効果は年間約3400万円と試算する。指定袋販売などの手数料収入は年間約4億5千万円で、本年度は袋の製造費などの必要経費を差し引き、約1億3千万円をリサイクル推進事業に充てる。

指定ごみ袋以外の袋で出す違反ごみは、可燃ごみでは減少しているものの不燃ごみは横ばい傾向。市は違反ごみが多いごみステーションでは指導や看板設置などを強化する。

市議会は有料化を認める条件として「3年ごとの制度の見直し」を求めている。市は来年度中にごみ減量の効果などを検証し、制度の継続の可否を判断する。継続する場合も袋の価格などの見直しを図るという。

（2016 年 11 月 15 日付朝刊大分面）